



自分を信じることと、1.01の努力

みなさんもよく知っている「ライオンキング」「美女と野獣」などのミュージカル、靴のつま先とかかかとで1分間に500回以上も音を出すタップダンスなどのショーは、アメリカが本場とされています。ニューヨークやラスベガスの有名な劇場のショーに出演するためには、厳しいレッスンを最低でも3年以上は受け、競争率が百倍千倍というオーディション（試験）に合格しなければなりません。アメリカ人でも厳しいのですが、さらに日本人は英語と体型で不利になりやすいとされています。数は少ないのですが、その困難さを克服して、世界のトップクラスの舞台に立つという夢をかなえた日本人もいます。

あるテレビ番組で、夢をかなえて舞台に立つことのできた4人の日本人に個別にインタビューし、最後に共通して次の質問をしていました。「夢をかなえて成功するために必要なものは何だと思いますか?」。表現の仕方は違っても、4人とも全員ほとんど同じ答えでした。「自分を信じること」と「毎日休まずに練習すること。ほんの少しだけでも余分（よぶん）に」の2つでした。

【自分を信じること】

めざすもの、目標、夢・・・それが何であれ、自分は必ずできるんだと自分を信頼すること、自分の可能性を信じることなしに、何も達成・実現することはできません。みなさんがよく言い訳する時に、「どうせオレ（ワタシ）なんか・・・できるわけない」という言い方をしませんか。本心でないにせよ、あの言い訳の仕方はやめましょう。中学生の時にそんなことを言っていたら、いつ自分の可能性を信じるんだ?と聞き返したくなります。

決してきれいごとを言っているのではなく、みなさんは今からどんな人間にもなれるし、どんな職業にもつけるし、どこへでも行ける可能性があります。どんなふうにも変われるのです（みなさんの中から、ノーベル賞をとるような人、TVで活躍する芸能人や有名なユーチューバー、プロスポーツ選手、宇宙飛行士・・・が出てくるかもしれません）。若者は、周囲の予想をはるかに超えて成長する可能性があるのです。その可能性を信じるか、信じないかです。飛行機が発明されたのは、人間が空を飛べるはずはないと1,600,000,000人（16億人：当時の世界の人口）が思いこんでいた時に、わずか2人が、空を飛んでみたいと本気で思い、人間も鳥のように空を飛べる可能性を信じ続けたからなのです。

【毎日休まずに練習すること。ほんの少しだけでも余分（よぶん）に】

ある高校の校長先生に教えてもらった「〈1.01〉と〈0.99〉の法則」を紹介します。

あなたが、1日にできる普通（通常）の努力を「1」とします。わずか1%（0.01）だけでも余分に努力をすると、その日は「 $1 + 0.01 = 1.01$ 」となります。逆に、ほんの1%だけ怠けて手を抜くと、その日は「 $1 - 0.01 = 0.99$ 」となります。

1.01は、1よりほんの少しだけ大きい。0.99は1よりほんの少しだけ小さい。この2つの数字の差は、わずかたったの0.02です。ところが、この「わずかたった0.02」が積み重なっていくと、ある一定の日数・時間がたつと、とんでもなく大きな差になっていきます。1年間で考えてみましょう。

1日を、ほんの少しだけがんばって1.01で365日がんばり続けたら、 $1.01 \times 1.01 \times 1.01 \times \dots$ 、つまり、1.01を365回かけることとなります。1.01の365乗=37.78となります。

一方、1日を、ほんの少しだけ怠けて、0.99で365日過ごしたら、0.99を365回かけることとなり、0.99の365乗=0.026となります。

こんなにも大きな差になってしまうのです。毎日わずか1%だけ余分に努力を続けた人と、毎日1%だけ手を抜いた人とでは、1年間でここまで大きな差がついてしまいます。

普段、自分がしている努力が1としたら、1.1でなくて、1.01でよいのです。決して、2倍、3倍努力しなければならないという、継続が難しいことでもありません。日々、1.01を心がけていくと、時間の経過と共に、自分の予想をはるかに超えた力が身につく、自分でも驚くかもしれません。たとえ一日たりとも無駄にしないこと、ほんの少しだけ頑張る努力を継続していくことが大切です。